

令和6年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ヤマムラ	代表者	竹谷 陽子	法人・事業所の特徴	「すべてにありがとう。」を合言葉に、利用者様に寄り添い、落ち着いたきめ細かなサービスを提供しています。 カンファレンス、ミーティングをこまめに行い、利用者様のケアを見直し、安心できる質の高い介護を行っています。
事業所名	小規模多機能ホーム おひさま	管理者	竹谷 裕		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	人	1人	1人	人	3人	人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○事業所自己評価に記載の改善計画を具体的にわかりやすく項目を挙げ、職員間で共有し達成できるようにする。	○スタッフ全員で、できている点、できていない点を把握し、改善に向けて取り組んでおられる姿勢が伝わってくる。 ○施設全体として利用者様と家族の意向を取り入れる姿勢があると感じる。	○スタッフ全員が改善計画を分析し、それを生かしてより良い介護施設を目指されていることが分かる。 ○取り組みが出来ている項目、出来ていない項目を把握し、次の改善計画に取り込まれているのが分かった。	○スタッフ全員が事業所運営を意識し、常に利用者やご家族に還元出来る業務改善を行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	○事業所のしつらえについては毎年度、運営推進会議委員の高い評価を頂いており、今年度も運営推進会議委員の方の期待に背かぬよう、居心地がよく、安心安全で清潔な事業所作りをを行う。	○施設のつくり、雰囲気、明るさなど、開放的で地域に開かれた施設であると感じる。 ○季節にあった、花、写真、絵画等が飾っており、環境がとてもよく、居心地の良い空間になっている。	○清潔感がある、とても良い施設と思う。 ○今までどおりの感じの良い施設であってほしい。 ○現状のまま安心安全に、運営してほしい。	○事業所のしつらえについては毎年度、運営推進会議委員の高い評価を頂いている。今年度もその期待に背かぬよう、清潔な環境を保ち、家族や地域住民の方が来訪頂きやすい環境を整備していく。
C. 事業所と地域のかかわり	○例年どおり、運動会、神社の祭り、サロン活動、老人会等に積極的に参加し、地域との交流を図る。またその折に「おひさま」を知ってもらうためのPRを行う。	○校区の運動会、神社の祭り、地域のサロン活動に積極的に参加されており、また秋の味覚のサツマイモ堀りを、隣接するこども園の子供たちと利用者とはがコラボして楽しんでおられる。 ○事業所は以前に比べると、地域の方に知られたと思う。なおもっと知られたら良いと思う。 ○場所としても地域になじみやすく、相談しやすい場所だと思う。	○地域との交流として行われたフリーマーケットは好評で、おひさまが、地域外の人にも知られてよかった。 今後も続けてほしい。	○これまでのように情報収集と共有に努め、地域資源とのかかわり方を模索する。 ○地域包括が作成している冊子等で地域資源の把握に努める。

<p>D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>○コロナ等感染症の感染状況を見ながら、地域とのかかわり特に地域行事への参加・散歩やドライブなど、ご利用様と共に地域に出向く機会を設ける。</p>	<p>○地域の方を交えた会議に参加しているが、事業所のために何か役立つことはないかなと常に思っている。また、自分自身がもっと事業所のことを知る必要があると感じている。 ○事業所として対外的な行事に参加する機会があると思うので、スタッフの方が交替で参加し、感じたことを事業所内で共有するだけでも意識が変化すると思う。 ○近所の心配な方の情報を運営推進会議の中で収集されている。 ○可能な範囲で、地域との交流や外出対応がなされている。</p>	<p>○校区の（各町内）老人会に事業所から出向いて、他の施設と違った特徴「小規模多機能型居宅介護」である長所等を説明されると、もっと利用が増えると思う。 ○向山校区社協でPRされていた、小規模多機能型居宅介護についての説明が分かりやすかったので、地域のサロン等でも情報発信をお願いしたい。自己評価の中に、もっと地域に出たいという思いの箇所が見られていたこと自体が評価されると思う。</p>	<p>○地域住民におひさまを知ってもらう機会をもっと増やしていく。チラシなどを用意する。 ○おひさま主体のイベントだけでなく、地域の行事にも積極的に参加する。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>○運営推進会議の重要性に鑑み、利用者の家族や地域住民の代表者にサービスの内容を明らかにしてサービスの質を確保し地域との連携を図る。 ○例年通り、運営推進会議の委員の皆様から率直な意見を頂き、サービスの向上を図る。 ○運営推進会議の委員の皆様と一緒に介護について勉強する。</p>	<p>○運営推進会議で、事業所の取り組みをわかりやすく説明されている。 ○運営推進会議では事業所の現状など詳しく説明され分かりやすいが、地域の心配な方等の話し合いを気軽に（例えば事業所に相談があったこととかの例も含めて）検討すれば利用者も増えると思う。 ○会議での活動報告や各行事（敬老会やフリーマーケット）のチラシなどから施設の雰囲気伝わってくる。 ○会議の時だけでなく、日頃から地域の方々とは情報交換されていると思う。そういう積み重ねが大切だと感じている。</p>	<p>○運営推進会議ではいろいろな知識が学べるので、とても為になる。 ○日常の事業所の様子を参観出来たらと思う。（個別でも） ○運営推進会議内での意見交換は地域との情報共有の場であるので、これからはもっと時間を設けて地域でのつながりを強化してほしい。</p>	<p>○運営推進会議で今後の会の運営について意見を聞く場を設けて、地域がおひさまに望んでいる意見を積極的に拾い上げる。 ○運営推進会議の内容をミーティング等で報告してもらい、内容をスタッフ間で共有する。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害 対策</p>	<p>○6年度4月から義務化されたBCP（災害）計画に基づき研修訓練を実施する。</p> <p>○前年度に続き、災害時の緊急対応のために、地域の消防団・自治会と綿密に連携し協力体制を構築する。</p> <p>○おひさまの建物が平屋のため、洪水時の避難場所の確保が必要であり、隣接の鳳鳴こども園を避難場所とした。今後避難場所までの避難経路を確認する。</p> <p>○避難訓練には、運営推進会議の参加者やご家族にも参加を呼びかけ、意見交換をする。</p>	<p>○防災計画については対策されており、地域の消防団、自治会との協力体制が構築されていて、地域にとっても頼りになると思われる。</p> <p>○災害（水害、地震は特に）は身近なものとして訓練されており、日頃から近隣の社会資源をしっかりと活かし把握すること、具体的に訓練することが強みになると思われる。</p> <p>○洪水時の避難場所を隣接の鳳鳴こども園に確立されている。</p> <p>○万が一に備えて準備することがますます必要になってくると感じる。</p>	<p>○河川が近いこと、平屋の建物であること等の把握をしっかりとされていると思う。</p> <p>訓練はこれからも定期的に関係者と地域と密接に連携していく必要があると思われる。</p> <p>○防災の計画はしっかりとされているが、いざとなると計画どおりにはいかないことが多々あると思う。やはり、地域と連携し、協力が必要と思われる。</p>	<p>○おひさまや地域の防災・災害対策を地域の方と情報共有する。</p> <p>地域の防災訓練にも積極的に参加する。</p>
---------------------------------	--	---	---	--